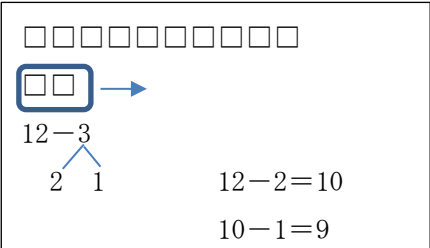


P 目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）	
視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題がわかり、進んで学ぼうとしている。 ・授業でわかったことやできたことなどを振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところを聞こうとしている。 ・伝えたいことを考え、言葉を選んだり話したりしている。
【現時点での課題（授業者・学習者）】 <ul style="list-style-type: none"> ・算数科の学び方（学習過程）の定着。 ・学習意欲の持続。（課題設定・学習活動・学習訓練） ・「振り返り」での達成感。（評価問題の内容・達成状況） 	【現時点での課題（授業者・学習者）】 <ul style="list-style-type: none"> ・全員に自分の考えをもたせること。 ・自分の考えを説明すること。 ・理解しようとして聞くこと。

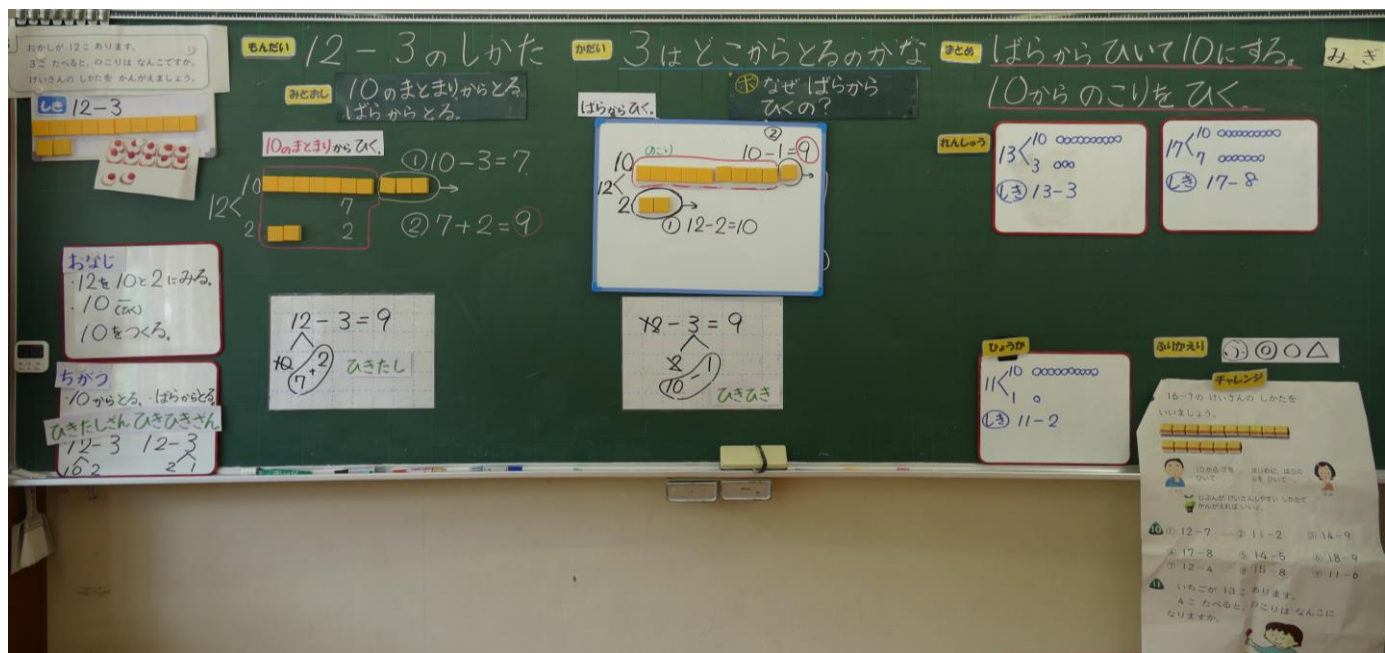
P D		1 学年 算数科 単元指導計画	
単元名 ひきざん (東京書籍1年②)	日 時	令和4年10月26日(水)5時間目	
	対象学級	小友小 1年(4名)	
	授業者	教諭 金田 郁子	
1 単元の目標		(何ができるようになるか)	
[知識及び技能]	[思考力、判断力、表現力等]	「学びに向かう力、人間性等」	
○11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にすることができることを理解し、その計算が確実にできる。 (A(2)ア)	○数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を操作や図を用いて考え、表現できる。 (A(2)イ)	○11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとする。	
2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」		(何を通して育成するのか)	
(数学的活動：ウ) 11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の場面をブロックや図に表し、それを基に立式したり計算の仕方を説明したりする。			
3 単元の評価規準		(何が身に付いたか)	
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
○11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にすることができることを理解し、その計算を確実にしている。 (A(2)ア)	○数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。(A(2)イ)	○11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。	
4 「2つの視点」+αによる授業改善		(どのように学ぶか)	
視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」	「リーダー学習」	
①導入の場面において、学習する目的をもたせるために、新しい考え方「ばらからひく」ことについて予想を立てさせたりゴール問題を示したりする。 ②振り返りで学習感想を話す場面において、児童に「何ができた・わかったのか」を自覚させるために、板書を使って振り返り、視点を与えて話させる。	①学び合いの場面において、考えを整理させるために、ブロック操作と関連させながら「3をばらからひく」ことを説明させる。 ②学び合いの場面において、10のまとまりで考えることに気づかせるために、加減法と減減法の共通点に着目させる。	①学習の始まりで1単位時間の学習の流れをつかませるために、学習過程を書いたマグネットを掲示し視覚化する。	

5 単元の指導と評価の計画 (全10時間)		(単元をどうデザインするか)		
時	目標	学習活動	おもな評価規準	用語
1 13-9 のけいさん				
1	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法の計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	○のこりのどんぐりのかずをかながえよう。 ①既習の減法計算を振り返る。 ②問題場面をひき算に表し、位に着目させ、1の位どうしではひけない未習計算であることをとらえる。 ③ブロック操作で答えを確認する。 ◎13-9は、ばらからひけない。	【知・技】 ・既習の加減計算を理解し、その計算ができる。 【態度】 ・既習の加減計算の学習や数の見方を基に、13-9などの計算の仕方を考えようとしている。	・使うと ・残りは ・10とばら ・ばら ・10のまとまり
2	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法の計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	○13-9のけいさんのしかたをせつめいしよう。 ①「10といくつ」という数の見方を使いブロック操作しながら13-9の説明をする。 ②13-9を減加法の図で表す。 ③適用問題に取り組み、「10いくつ-9」の理解を深める。 ◎10のまとまりからひく。(ひきたしさん)	【知・技】 ・既習の加減計算や「10といくつ」という数の見方を基にした13-9などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。 【思・判・表】 ・13-9などの計算の仕方を、数の見方(10といくつ)を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。	・3から9はひけない。 13を10と3にわけると、 $10-9=1$ 。 $1+3=4$ 。 ・ひきたし方法
3	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。	○13-8のようなけいさんのしかたをかながえよう。 ①13-9と同様に「10といくつ」という数の見方を使いブロック操作しながら減数が8や7の場合の計算を考える。 ②10のまとまりから1位数をひくとよいことについてまとめる。 ③11-7や11-8の計算の仕方をブロック操作や図に表したりして説明する。 ◎10のまとまりからひく。	【知・技】 ・減加法による計算が確実にできる。 【思・判・表】 ・減数が8～5の場合でも、10のまとまりから1位数をひいて計算すればよいことを考え、説明している。	
4	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。	○ばらからひけないひきさんのれんしゅうをしよう。 ①減数が9～5の場合の計算練習をブロック操作や図に表したり、そのまま計算したりして取り組む。 ②文章題に取り組む。	【知・技】 ・減加法による計算が確実にできる。	
2 12-3 のけいさん				

5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法の計算で減数を分解して計算する方法（減 	<ul style="list-style-type: none"> ○3はどこからとるのかな。 ①場面を立式する。 ②13-9と同様に「10といくつ」という数の見方を使いブロック操作しながら12-3を加減法で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりを作る。 ・ひきひき方法
	<ul style="list-style-type: none"> 々法)があることを知り計算の仕方についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ③減減法で表した12-3をブロック操作と関わらせながら読み取る。 ◎ばらからひいて10にする。10からのこりをひく。(こともある。) 	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数をひくことに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法の計算の仕方についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひきたしざんやひきひきざんのれんしゅうをしよう。 ①加減法でも減減法でも自分の計算しやすい方法で考えてよいことを確認する。 ②計算練習に取り組む。 ③文章問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解し、その計算ができる。 	
3 かあどれんしゅう				
7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・減法の計算能力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○けいさんカードをつかってひきざんのれんしゅうをしよう。 ①減加法や減減法の図を書いて練習する。 ②友だちどうしで問題を出し合ったり答えの大きさ比べをする。 ③答えが同じ式を考え、数の並び方の規則性を見出し、数の関数的な見方にふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。 <ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・計算カードの並び方について、被減数が1増えると減数も1増える、という関数的な見方に気づき、数の関係を説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たてに見る ・横に見る ・きまり
3 まとめ				
10	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことよさを感じ価値づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひきざんのれんしゅうをしよう。 ①練習問題に取り組む。 ②ワークテストに取り組む。 ③単元末の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・基本的な問題を解決することができる。 【思・判・表】 ・単元の学習を活用して問題の解決の仕方を考え、説明している。 【態度】 ・単元の学習で考えた過程や結果をふり振り返り、そのよさや楽しさを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多い ・重なる数 ・左に動かす

6 本時の展開		(本時をどうデザインするか)
	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 問題を把握する。 12-3 のしかた 2 課題を設定する。 3はどこからとるのかな。	・12-3 であることは、前時のチャレンジ問題で確認する。 【視点1：学習意欲の向上①】 導入の場面において、学習する目的をもたせるために、新しい考え方「ばらからひく」ことについて予想を立てさせたりゴール問題を示したりする。
7 分	3 見通しをもつ。 ・ブロックで被減数を表し、どこから3を取るのか考える。(10か2か) ・答えは9であることを確認する。 ◎3をどこからひくのかな。	・既習の「10のまとまりから引く」考えは、全体で確認する。
展 示	4 自力解決をする。 ・減減法についてブロック操作の後、さくらんぼ計算で考える。 5 学び合う。 ①「ばらから2を引くと10のまとまりができる」。減数の「残った1は10のまとまりから引く」  ◎どうしてばらからひくの？ ◎加減法と減減法の同じ点と違う点を話し合う。 6 学習のまとめをする。 ばらからひいて10にする。 10からのこりをひく。(こともある) 7 練習問題を解く。 *①と②のどちらかに取り組む。 ①13-4 ②17-8	【視点2：言語活動の充実①】 学び合いの場面において、考えを整理させるために、ブロック操作と関連させながら「3をばらからひく」ことを説明させる。 ・①では自分の考えを整理させるために、ペアで自分の考えを話させたり、相手の考えを聞かせたりする。 【視点2：言語活動の充実②】 学び合いの場面において、10のまとまりで考えることに気づかせるために、加減法と減減法の共通点や相違点に着目させる。 ・②では全体で話し合い、共通点からまとめにつなげる。減減法を児童の言葉で名付ける。 ・加減法と減減法のどちらで考えてもよいことを知らせる。 ・ブロック操作の後、さくらんぼ計算で取り組む。 共通点や相違点を探すのは抽象的だったからか難しかった。
28 分		・答え合わせは、同じ問題に取り組んだ2人で行った後、別問題に取り組んだ2人に説明し、確認する。 ・全体で加減法と減減法の両方にふれるようにする。
終 末	8 学習を振り返る。 (1) 評価問題を解く。 11-2 (ブロック操作とさくらんぼ計算で取り組む) (2) 学習感想を話す。	【思・判・表】 ・被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数をひくことに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。[発言・記述] 【視点1：学習意欲の向上②】 振り返りで学習感想を話す場面において、児童に「何ができた・わかったのか」を自覚させるために、板書を使って振り返り、視点を与えて話させる。
10 分	・ばらからはひけないと思ったけど、ばらからひいてもできた。 ・10のまとまりが だいじだと思った。 ・ひきたしでも ひきひきでも できて びっくりした。 (3) チャレンジ問題から次時の見通しをもつ。P8 2 ひき算の練習をしよう。	

7 板書計画等 (学びの可視化をどうデザインするか)



C A

目指す授業像 (本学区では、共通してどんな授業を目指すのか)

視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題がわかり、進んで学ぼうとしている。 授業でわかったことやできたことなどを振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと友達の考えの似ているところ・違うところを聞こうとしている。 伝えたいことを考え、言葉を選んだり話したりしている。
<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要性や考えがいのある課題。 半具体物の提示で考えが深まる。考える過程を具体物や図で表現しあい、互いの考えを理解しようとする態度を養うこと。 見方や考え方によった振り返り 	<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師と児童のやりとりを想定し、実際の授業で使える学び合いの構想図。「見方・考え方」をどう児童から引き出すか、あらかじめ決めておく必要がある。それができていた。
<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者については、学び方の流れに慣れてきつつあり、一単元時間の見通しをもちつつある。課題設定からチャレンジ問題までその流れが身についてきた。 学習者については、振り返りは、まとめをなぞるだけではだめということは理解しつつある。言ってほしい具体を示している。それ以上に、言ってほしいことを振り返りで出したいくなる授業が必要。 	<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数用語と学び合いの柱を視覚化は有効。 2つの事項の共通点や相違点、規則性を見つけるなど、抽象的なことは難しい。が、経験として継続する。
<p>【授業者所感・今後の実践に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複式授業で、児童だけで授業を進めることを意識し、児童リーダーの育成を図りたい。2年生の取り組みを参考にしたい。 「算数は、ちょっと難しいけど、楽しいときもある。」と感じてもらえるようにしたい。「算数」を題材にして論理的に説明しあったり、相手の考えを理解しようとする授業をめざしたい。そのためには、基礎の定着も必須。家庭学習と授業の連携を図りたい。 	

8 学び合い構想図

問題 おかしが12こあります。3こたべるとのこりはなんこですか。
けいさんのしかたをかんがえましょう。(前時にチャレンジ問題として取り上げる。)

課題 3はどこからとるのか

学び合い <10からひく>

2-3はできないから12を10と2に分ける。始めに10-3=7。7+2=9。(ひきたし算)

<ばらからひく>

2を先にひくと簡単に10ができる。12-2=10。本当は3ひかなければならないから、1を10からひく。(ひきひき算)

[学び合いの視点] どこから3をひくか。どうしてばらからひくのか。

T: どこから3をひいているの?

C: ばらから。

T: どうしてばらからひくの?

C: 始めにばらからひくと10がすぐできる。

12-2は簡単。10-1も簡単。

ひきたし方法でも10からひいた。10のあるひき算は簡単。

[使わせたい言葉]

- ・10(のまとまり)を作る。
- ・10(のまとまり)からひく。
- ・ばらからひく。
- ・3を2と1にわける。
- ・2をひく。本当は3をひかなければならないので1をひく。
- ・ひきたし方法
- ・ひきひき方法

(相違点: 始めに10からひくか、ばらからひくか。12を10と2に分けるか、3を2と1に分けるか。)

共通点: 12を10と2と見る。10を作る。10からひく。

まとめ
ばらからひいて10にする。
10からのこりをひく。(こともある。)